《その２》 提灯つけて

ここの追分（おいわけ）あたりでも、よく狐にだまされた話あんのね。

高砂から帰るって歩いていたら、その前に提灯持って歩く人いるんだと。

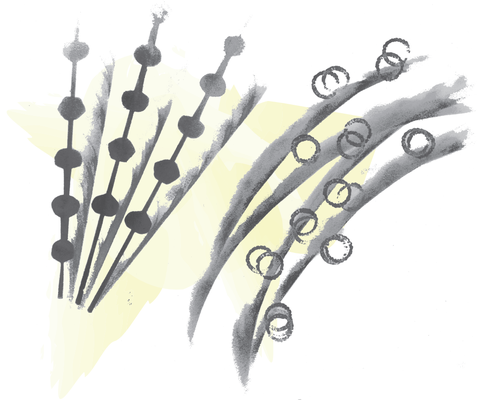
「ああ、明かり持っている人がいて、いい按配（あんべ）だな」

って、喜んで、その明かりについていったらね、どこまでも、どこまでも行くんだと。

気がついたら、くるくるくると同じところを、何回もまわっていたんだとね。

いつまでたっても家さ着かねえんだと。

そういうこともよくあったね。やっぱり、狐なんだね、そうやって、人にちょっかい（いたづら）かけて困らせていたんだね。

んでも、思うのね、昔はこうやって、人も狐も一緒に生きていたんだなあ、ってね。

この頃は、狐もさっぱり出てこなくなったものね。ちょとさびしいね。